

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復師学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名		柔道整復術の適応		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		3年生		学期及び曜時間	後期	教室名	第2校舎203
担 当 教 員		鈴木 伸典	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》							
医師と同様に、急性外傷に対する柔道整復師の役割は大きい。急性外傷は二次的合併症予防のためにも早期診断・早期治療が必要となるため、柔道整復術の適応をこの時間で身に付けることが必要となる。							
《成績評価の方法と基準》							
期末試験評価:100%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
医療の中の柔道整復(全国柔道整復学校協会編集)							
《授業外における学習方法》							
使用教材に指定している教科書「医療の中の柔道整復(全国柔道整復学校協会編集)」を基に該当範囲の予習と復習を行うこと。適宜必要に応じて、柔道整復学の教科書を参考にすること。							
《履修に当たっての留意点》							
教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術が適応となる基本原則を理解する。		医療の中の柔道整復(全国柔道整復学校協会編集)	教科書を確認して、柔道整復学と重複する部分を確認する。	
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の適否を考える				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術が適応となる症状の鑑別ができるようになる。		医療の中の柔道整復(全国柔道整復学校協会編集)	柔道整復術の対象となる外傷について科目横断的に確認する。	
		各コマにおける授業予定	損傷に類似した症状を示す疾患①				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術が適応となる症状の鑑別ができるようになる。		医療の中の柔道整復(全国柔道整復学校協会編集)	柔道整復術の対象となる外傷について科目横断的に確認する。	
		各コマにおける授業予定	損傷に類似した症状を示す疾患②				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術が適応となる症状の鑑別ができるようになる。		医療の中の柔道整復(全国柔道整復学校協会編集)	柔道整復術の対象となる外傷について科目横断的に確認する。	
		各コマにおける授業予定	損傷に類似した症状を示す疾患③				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術が適応となる症状の鑑別ができるようになる。		医療の中の柔道整復(全国柔道整復学校協会編集)	柔道整復術の対象となる外傷について科目横断的に確認する。	
		各コマにおける授業予定	損傷に類似した症状を示す疾患④				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	軟部組織損傷を伴う外傷の判別ができるようになる	医療の中の柔道整復(全国柔道整復学校協会編集)	柔道整復術の対象となる外傷について科目横断的に確認する。
		各コマにおける授業予定	軟部組織損傷を伴う損傷①		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	軟部組織損傷を伴う外傷の判別ができるようになる	医療の中の柔道整復(全国柔道整復学校協会編集)	柔道整復術の対象となる外傷について科目横断的に確認する。
		各コマにおける授業予定	軟部組織損傷を伴う損傷②		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	軟部組織損傷を伴う外傷の判別ができるようになる	医療の中の柔道整復(全国柔道整復学校協会編集)	柔道整復術の対象となる外傷について科目横断的に確認する。
		各コマにおける授業予定	軟部組織損傷を伴う損傷③		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	軟部組織損傷を伴う外傷の判別ができるようになる	医療の中の柔道整復(全国柔道整復学校協会編集)	柔道整復術の対象となる外傷について科目横断的に確認する。
		各コマにおける授業予定	軟部組織損傷を伴う損傷④		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	軟部組織損傷を伴う外傷の判別ができるようになる	医療の中の柔道整復(全国柔道整復学校協会編集)	柔道整復術の対象となる外傷について科目横断的に確認する。
		各コマにおける授業予定	軟部組織損傷を伴う損傷⑤		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	意識障害・脊髄症状のある外傷を判別できるようになる	医療の中の柔道整復(全国柔道整復学校協会編集)	柔道整復術の対象となる外傷について科目横断的に確認する。
		各コマにおける授業予定	重症度の高い外傷①		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸運動障害を伴う損傷を判別できるようになる	医療の中の柔道整復(全国柔道整復学校協会編集)	柔道整復術の対象となる外傷について科目横断的に確認する。
		各コマにおける授業予定	重症度の高い外傷②		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	内臓損傷の合併が疑われる損傷を判別できるようになる	医療の中の柔道整復(全国柔道整復学校協会編集)	柔道整復術の対象となる外傷について科目横断的に確認する。
		各コマにおける授業予定	重症度の高い外傷③		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	高エネルギー外傷を判別できるようになる	医療の中の柔道整復(全国柔道整復学校協会編集)	柔道整復術の対象となる外傷について科目横断的に確認する。
		各コマにおける授業予定	重症度の高い外傷④		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の適応となるか総合的な判断ができるようになる	医療の中の柔道整復(全国柔道整復学校協会編集)	柔道整復術の対象となる外傷について科目横断的に確認する。
		各コマにおける授業予定	まとめ		